

修正後	修正前
3.2.1 増分解析時の外力分布の設定方法について A-1	3.2.1 増分解析時の外力分布の設定方法について A-1
<p>【解説】</p> <p>③特別な調査・研究（平成19年国交省告示第594号第4第二号ハ）による場合。（図-1（c）参照）特別な調査・研究の一例として、A_i 分布に基づく外力分布で3層以上に崩壊形ができて1層、2層が未崩壊層となる場合を示す。このとき、1層、2層の D_s 値に最大値を用いた場合には、保有水平耐力の算定における外力分布形として Q_{un} 分布を採用することができる。</p> <p>（図略）</p> <p><u>②の特定層で「部分崩壊形」となる場合に関連して、連層耐震壁の場合について、②の条件を適用して Q_{un} 分布が採用できることを以下の事例を挙げて解説する。</u></p> <p><u>〈事例〉連層耐震壁架構の水平加力時、2階の耐力壁にせん断破壊による部分崩壊形が生じる場合</u></p> <div style="text-align: center;"> <p>正方向加力時 →</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p><u>A_i 外力分布を用いて増分解析した結果、2階耐力壁がせん断破壊（部分崩壊）しているが、3階以上の階が全体崩壊形になっていることが確認できていないため、3階以上の階に Q_{un} 分布の適用はできない。A_i 外力分布を用いて保有水平耐力 Q_u を求める。</u></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p><u>左の解析後、3階壁脚で曲げ崩壊することで3階以上が全体崩壊形になっていることを確認できているため、3階以上の階に Q_{un} 分布の適用ができる。</u></p> <p><u>なお、1階に対しては③を適用して D_s 最大値を用いた場合は Q_{un} 分布を適用することもできる。（*1）</u></p> </div> </div> <p>【補足事項】 外力分布と保有水平耐力との関係についての補足として、以下に外力分布によって保有水平耐力 Q_u と崩壊形が異なることの例を示す。</p>	<p>【解説】</p> <p>③特別な調査・研究（平成19年国交省告示第594号第4第二号ハ）による場合。（図-1（c）参照）特別な調査・研究の一例として、A_i 分布に基づく外力分布で3層以上に崩壊形ができて1層、2層が未崩壊層となる場合を示す。このとき、1層、2層の D_s 値に最大値を用いた場合には、保有水平耐力の算定における外力分布形として Q_{un} 分布を採用することができる。</p> <p>（図略）</p> <p>【補足事項】 外力分布と保有水平耐力との関係についての補足として、以下に外力分布によって保有水平耐力 Q_u と崩壊形が異なることの例を示す。</p>